

令和3年度 沖縄県振興審議会第6回文化観光スポーツ部会 議事要旨

日時: 令和3年 11 月 24 日(水) 10:00~11:22

場所: 沖縄県市町村自治会館大会議室及びオンライン

1 新たな振興計画(中間とりまとめ)審議結果振り返り

【平田副部長】

- 「世界文化遺産、組踊、琉球舞踊、その他の伝統芸能等の文化資源の観覧等を通じて文化についての理解を深める文化観光」と書いてあるが、文化観光の部分ではいろいろな捉え方があるので、例えば「その他、舞踊をはじめとする」を含む、「多彩な文化、芸能などのソフトコンテンツ資源を活用した文化観光」という感じの書きぶりのほうがよい。
- 原文にVR・ARとあるが、最近ではMRも出てきており、この計画が公に出るときには既にVR・ARという言葉自体が古いということにもなりかねないので、書きぶりは少し考えたほうがよい。

【富田委員】

- 文化資源の例示について、沖縄の文化はひとくくりでもかなりの部分をカバーするので、なかなか一つ一つ挙げていくのは難しい。特定なものを挙げたほうが分かりやすいと思うが、そうするとこぼれてしまうものが出てくると思うので、様々な沖縄文化観光のポテンシャルになり得ることが分かり得るような書きぶりにしていただきたい。
- 文化観光に対する、産業化に対するノウハウを持った人材の育成や環境の整備を挙げているが、人材育成、環境整備の前にもう1つ、各地域や各国の先進的な好事例の調査研究の推進ということが入れられないか検討いただきたい。

【平田副部長】

- 文化芸術に関する産業の創出の部分で、文化観光という考え方は絶対必要である。これからの観光はソフトパワーをいかに活用するか、また活用方法は観覧、鑑賞、観劇だけでなく、いかに体験してもらうかということが重要である。

【東委員】

- 規制緩和や国家戦略特区に関して、例えば空手や文化で素晴らしいガイドがいても、ツアーで回るときにタクシーかハイヤーしか使えないとなると、コストが掛かってしまう。
- いいプログラムがあるのに個人で来て回れないということになるので、産業化する場合はハードも交通も環境整備が必要である。

【下地部会長】

○法律の文化観光拠点施設の活用について、博物館や美術館をもっとより積極的に使って
いこうという方針で全国的に拠点の申請が進んでいる中で、沖縄からの申請がないとい
う現実がある。ものづくりの視点も含め、次年度以降の文化観光に関する事業の中でし
っかり取り組んで欲しい。

2 主要指標及び成果指標について

【富田委員】

○首里城を中心とした琉球文化のルネサンスの成果指標について、多彩な沖縄文化、工芸、
それから伝統文化を皆さんが体験する割合というものを取り入れていただいたほうがよ
い。

3 税制要望に関する説明

【東委員】

○ライドシェアの問題、ウーバーの問題、ドローン、越境EC、Airbnb（エアビーアンド
ビー）、下地島空港の宇宙港の問題など新しい取組において、どうしたらビジネスになり
やすいのか、または香港や深圳も含めて不利にならないようにするか、全て規制緩和、環
境をどうしていくのかというのが非常に重要な部分である。

【下地部会長】

○どういった規制があるのかというところが十分に洗い出されていないように感じる
ので、これを機に来年始まる振興計画の中でも県の中でも、規制緩和に関する意見交換を
行ってほしい。

【與座嘉博委員】

○沖縄県酒造組合さんとタイアップをして、泡盛ツーリズムの事業を行わせていただい
ているが、酒蔵をめぐる人たちは当然、車で移動するにしても本人では運転できないとい
うことで、緑ナンバーに関するその辺の規制の問題がかなり出てきている。そういった
規制緩和などが行われれば雇用の創出という観点からいっても、ガイドになろうと思
う人たちのモチベーションが出てくるのではないかと。

以上